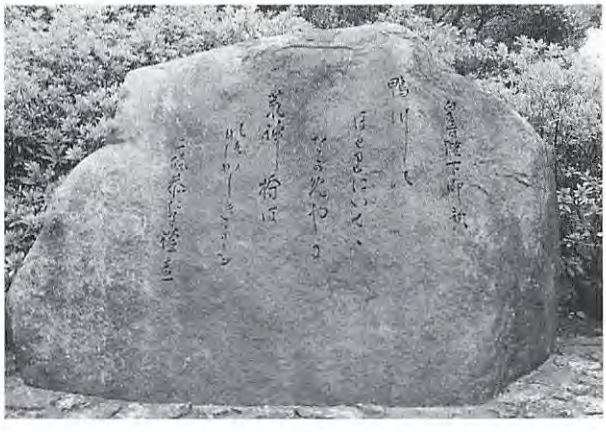
清政

神道政治連盟京都府本部会報

創立三十周年記念特集号

香淳皇后御歌

鴨川の
ほとりにいでて
ながめやる
荒神橋は
なつかしきかも



皇太后陛下におかせられましては、去る六月十六日午後四時四十六分、皇居・吹上大宮御所で崩御あらせられました。御年九十七歳でありました。

天皇陛下には御誄を奏上あそばされ、御親ら諡を御奉告になり、諡は「香淳皇后」と定められました。ここに謹んで奉悼の至誠を捧げ奉るものであります。

香淳皇后は、明治三十六年三月六日久邇宮邦彦王と倶子妃の長女として御誕生になり、御幼少の頃より御入洛の節には、御分家の久邇宮多嘉王家（現在の京都市中京区荒神口付近）へ幾度もおもむかれ、一時期お住まいになっておられました。昭和五十六年十月十五日天皇皇后両陛下が京都府に行幸啓の折、鴨川荒神橋の付近をお通りになり、その時の御印象を昭和五十七年の新年宮中歌会始にお詠みになったのがこの御歌であり、この旧久邇宮邸跡には歌碑が建てられています。

神道政治連盟京都府本部創立三十周年記念大会次第

平成12年11月27日（月）午後1時00分より6時30分　　於 リーガロイヤルホテル京都

一、開会のことば
一、国旗儀礼
一、綱領唱和
一、国歌斉唱
一、歌とお話
　ソプラノ歌手　島田祐子さん
　「伝えたい、日本の心の歌＝童謡・唱歌」
一、鼎談
　『激動の昭和を顧みて』
　――神政連運動史を通して――
一、決議文採択
一、国旗儀礼
　――会場移動――
一、記念表彰
一、被表彰者代表謝辞
一、祝電披露
一、来賓祝辞
一、乾杯
一、祝宴
一、閉会のことば

鼎談
『激動の昭和を顧みて』
――神政連運動史を通して――

司会
神道政治連盟京都府本部
本部長　田中恆清

鼎談者

神道政治連盟
会長　宮崎義敬氏（みやざきよしのり）

昭和9年山口県に生まれる。國學院大學文学部文学科四年中退。現在神功皇后神社宮司。忌宮神社、豊栄神社、野田神社宮司を歴任。この間山口県神社庁副庁長、同庁長、神社本庁理事等を歴任。現在、神道政治連盟会長、主な著書に『かん蛙』『蛍めし』『陶像』『忌宮長府祭事記』等がある。

神道政治連盟国会議員懇談会
事務局長　小山孝雄氏（こやまたかお）

参議院議員（自由民主党）。昭和18年山形県に生まれる。山形大学文理学部法律専攻科卒業。平成7年第17回参議院選挙（比例）にて初当選。以来、参議院予算委員会理事など歴任。第一次小渕内閣では労働政務次官に就任。現在、参議院憲法調査会幹事、自民党教科書に関する小委員会委員長、神道政治連盟国会議員懇談会事務局長として活躍中。

神道政治連盟
前事務局長　打田文博氏（うちだふみひろ）

昭和28年静岡県に生まれる。東海大学政治経済学部卒業。國學院大學神道学専攻科卒業。昭和52年寒川神社奉職、昭和55年から神社本庁に勤務。渉外部長・神道政治連盟事務局長等を務めるとともに日本会議常任理事、（財）日本宗教連盟事務局長、世界宗教者平和会議日本委員会評議員等を歴任。現在、静岡県小国神社宮司。

目次

香淳皇后御歌……2
神道政治連盟京都府本部
　創立三十周年記念大会次第……3
大会趣意書……4
神道政治連盟綱領……4
今こそ日本人たる
　覚醒運動を……田中恆清◆5
御支援御協力に深謝……高井和大◆5
祝辞……工藤伊豆◆6
京都府本部結成
　三十周年を祝して……綿貫民輔◆6
新たな決意と
　実践への期待……宮崎義敬◆7
祝辞……室田襄◆7
祝辞……林田悠紀夫◆8
記念音楽会・歌とお話……島田祐子◆8
激動の日々を経て
　復興をとげた時代……小山孝雄◆9
在職二十年を振り返って……打田文博◆9
記念表彰状及び感謝状贈呈者……10
特集「香淳皇后をお偲びして」……11
香淳皇后をお偲びして……九條道弘◆11
香淳皇后を偲び奉る……岸本宣美◆11
香淳皇后さまを
　お偲びして……古川妙子◆13
香淳皇后さま未公開ご宝物写真説明……14
事務局だより……15

〈敬称略〉

『激動の昭和を顧みて』

大会趣意書

冒頭に当り去る六月十六日昭和天皇と激動の昭和の時代を生き抜かれ平成の御代を慈愛を以って静かに見守られていた皇太后陛下が崩御あそばされ誠に恐懼痛惜の極みであり謹みて奉悼の至誠を捧げ奉るものであります。

さて昭和四十五年十一月、「神道精神を国政の基礎に」を活動の根源とする神道政治連盟京都府本部が結成されてより、平成十二年は創立三十周年の節目の年に当ります。

そして更に本年は、神武天皇が橿原の宮に即位されてより悠久の歴史を積み重ね、刻み続けた誠に記念すべき皇紀二六六〇年の慶祝至極の年に当っており、私たちはこの巡り合わせに感謝を捧げつつ、我国にとって一つの大きな転換点であるとの認識に立って、このまたとない機会に混迷を続ける我国の現状を冷静に把握し、温故知新の精神に学び今一度しっかりと足下を見つめ、そして見つめ直し更に効果ある国民運動を展開して参りたいと思います。

当本部の歴史を振り返れば、平成二年に迎えた創立二十周年は、時恰も今上陛下ご即位御大典の大慶事の年であり、神社界挙げての一大奉祝行事を挙行致しましたあの感動は、今も尚脳裏に焼き付いております。

更に平成七年に迎えた創立二十五周年は、大東亜戦争終結五十年の大きな節目の年に当り、当時衆議院において戦歿英霊を冒瀆し、我が国と我が民族の公僕たる代議士自らが、侮辱し軽蔑し貶める所謂「反省と謝罪と不戦の国会決議」を、私たちの猛反対を無視し強行採択に至った、正に異常な政情の時代でもありました。私たちはこの年に当って、大東亜戦争終結五十年「戦歿英霊に感謝の誠を捧げる集い」と題した大会を挙行し、その中で後世に正しい歴史を継承する事を目的としたパネルディスカッション「大東亜戦争とは何だったのか」を開催し、各界で活躍の憂国の諸先生をお招きして夫々熱弁を振るって戴いた事でありました。そしてその記録誌「いのり」は、多くの同志や識者の方々より好評を戴いた事は、誠に有難いことであり、今も私たちの活動の励みになっております。

さて前述致しました様に、私たちは本年当本部創立三十周年の佳節を迎えた訳でありますが、この混迷の世情の中で「昭和の日」の制定運動を更に推進し又明年は昭和天皇ご生誕百年という記念の年に当るこの機会に、昭和という時代の意義を正しく検証する必要を痛切に感じております。

皇室の尊厳護持、教育の荒廃是正そして新憲法制定、更には例の「神の国」発言に際しての偏向報道に見られる左傾化を厳しく糾弾すると共にその姿勢を正すための強力な国民運動を展開する等、現在私たちが取り組むべき問題は多岐に亘り、昭和が遠ざからないうちにその激動の時代の歴史の真実を振り返り、掘り下げることによって解決の糸口が見出せ、正しく次代に受け継がれていくものと確認しております。

ここに私たちは当記念事業のテーマを「激動の昭和を顧みて」と定め、先ず先人の労苦に敬意と感謝の意を表しつつ、課せられた使命を再確認し、神道精神を以ってすべての問題解決に果敢に対処してゆくことを共に誓い合う機会と致したいと思います。

右、会員を始め関係各位の格別のご理解ご賛同を賜り、当本部創立三十周年記念事業完遂に力強いご支援ご協力を乞い願い、趣意と致します。

記念事業

一、三十周年記念大会の開催
　（平成十二年十一月二十七日）
一、三十周年記念表彰状及び感謝状並びに
　記念品の贈呈
一、三十周年記念誌の刊行（大会終了後発行）
一、会報「清政」記念特集号の発行
一、大東亜戦争終結五十五年慰霊巡拝旅行の
　実施（沖縄方面・平成十三年二月頃）
一、その他必要な事業

神道政治連盟 綱領

一、神道の精神を以て、日本国国政の基礎を確立せんことを期す。
一、神意を奉じて経済繁栄、社会公共福祉の発展をはかり、安国の建設を期す。
一、日本国固有の文化伝統を護持し、海外文化との交流を盛んにし、雄渾なる日本文化の創造的発展につとめ、もって健全なる国民教育の確立を期す。
一、世界列国との友好親善を深めると共に、時代の弊風を一洗し、自主独立の民族意識の昂揚を期す。
一、建国の精神を以て無秩序なる社会的混乱の克服を期す。

「今こそ日本人たる覚醒運動を」

神道政治連盟京都府本部
本部長 田中恆清
（石清水八幡宮権宮司）

冒頭に当り、去る六月十六日、昭和天皇と激動の昭和の時代を歩まれ平成の御代を慈愛を以って静かに見守られていた香淳皇后が崩御あそばされ、誠に恐懼痛惜の極みであり、謹みて奉悼の至誠を捧げ奉るものであります。

さて、昭和四十五年十一月、神道政治連盟京都府本部が、先賢各位の熱情と斯界の強い要望に応えて創立されてより早三十年の歳月が流れた。

その間、中央本部の活動方針に沿いながら当本部独自の様々な国民運動を積極的に展開し、多くの同志の結束を図りつつその目的に向かって力を合わせ、大きな成果を挙げてきたものと改めて確信するものである。

本年茲に皇紀二六六〇年の佳節に当り、その悠久の歴史伝統に思いを馳せ、日本人として生まれ出でた幸福を噛み締めつつ新たな第一歩を踏み出さんと決意するものであり、正に風雲急を告げる昨今のわが国情を思う時、止むに止まれぬ心情に駆られること一入のものがある。

所謂戦後民主主義といわれる権利のみを主張し義務を放棄する事がさも当たり前の感覚となった日本人。祖国を蔑み罵り、人心を惑わす偏向マスコミ人。日本人である事を否定し、国を愛する気持ちを踏みにじり、祖国の歴史伝統を嘲笑し民主主義、自由主義とは相容れるはずのない社会共産主義国に媚び注進に走る売国奴達。斯様な日本人とも言えない日本人が大きな顔をして跳梁跋扈している憂うべき現状の国、日本。

作家福田和也氏も言うように教育論も、社会問題も、政治も環境も、愛国心という基盤を備えなければすべてが空論であるにも拘わらず、全く内容のない空騒ぎが延々と繰り返されているのである。

今私たちは、悠久の歴史伝統文化を誇る「日本国」を旗印に、真の日本人に生まれ変わるための国民運動をより具体的に提唱し、そして実践していかなければならない秋なのである。

「かくすれば　かくなるものとしりながら
やむにやまれぬ大和魂」これはかの吉田松陰先生の有名な和歌である。三十年に及ぶ神道政治連盟活動の原点は、正にこの歌に込められた思いを胸に秘めた尊皇愛国の民族精神覚醒運動ではなかったか。私はそう信じて止まないのである。

今茲に先輩諸賢が敷かれた太いレールが走っている。私たちはこの太いレールを確実に守りつつ、混迷の度を深めるわが国の実状をしっかりと見極め、支線を四方八方に巡らし特に国の根幹に係わる諸問題に対しては本線、支線を縦横無尽に行き来し誤りなきよう万全を期するものである。

結びに当り、本日茲に当本部三十周年記念大会にご参集下さった多くの来賓及び同志諸賢のご厚情に心からの感謝の意を表し上げると共に、私の拙い所感の一端を申し述べご挨拶とさせて頂きたい。

御支援御協力に深謝

三十周年記念事業実行委員会
委員長 高井和大
（貴船神社宮司）

神道政治連盟京都府本部創立三十周年記念大会が、皆様方の大変な御支援と御協力を賜りまして、おかげさまでこのやうに盛大に開催されることになりました。実行委員長として感激の極みで、まことにありがたく厚く御礼申し上げます。

今の日本の国情を一口に言ひ表はしますと、国の舵取役である政治家をはじめとして青少年に至るまで、「日本人としての誇りをなくしてさ迷つてゐる」、さう申してよいのではないかと思ひます。それは日本が戦に負けて、占領軍から、戦前・戦中の日本がおこなつた行動全てが悪であるとする自虐思想を巧妙に叩き込まれ、いまだにその呪縛から逃れられないでゐるからに他なりません。

私ども神道政治連盟の役割は、その失はさせられた日本人の誇りを取り戻すこと、それに尽きるのでございます。

今日の国情混迷の原点は、勝者が敗者を裁いたあの東京裁判の歴史観に起因してゐることは誰もが指摘するところです。それ故に、この三十周年の大会は「激動の昭和を顧みて」と、昭和の意義を考へることに主眼をおきました。

第一部は記念音楽会「伝えたい日本の心の歌＝童謡・唱歌」。ソプラノ歌手の島田祐子さんをお招きし、今では学校でも教へられなくなつた次代に伝へていきたいすばらしい歌の数々を歌つていただきます。つづく第二部が「激動の昭和を顧みて」と題する鼎談。神政連国会議員として大活躍の小山孝雄参議院議員、宮崎義敬神政連会長、打田文博前神政連事務局長の三氏に神政連の運動史を大いに語つていただき、神政連の使命を再確認したいと思ひます。

なほ、今年は終戦から五十五年にもあたることから、明年二月十二日から三日間、沖縄慰霊巡拝旅行も記念事業として実施します。京都の慰霊塔前での慰霊祭と、慰霊塔への道標整備をおこなふ計画を進めてをり、この事業にも、一人でも多くの方々の御参加、御協力を何卒よろしくお願ひ申し上げる次第でございます。

祝　辞

神社本庁
総 長 工 藤 伊 豆

此度、神道政治連盟京都府本部が創立三十周年の佳節を迎へられましたことは誠に慶ばしく、心よりお祝ひ申上げます。

会員各位には、平素より神社本庁の諸施策に対しまして格別なる御高配を賜はつてをりますことに厚く御礼申上げます。

さて顧みますれば、貴本部は高度経済成長下で物質的な豊かさを国民が享受する一方で、日本固有の精神文化の喪失が懸念され始めた昭和四十五年十一月に、国風伝統を重んじ祭祀の振興と道義の昂揚を図り、大御代の弥栄を祈念し、併せて四海万邦の平安に寄与するといふ神道精神を国政の基礎にとの固い御決意のもと結成されたのであります。

爾来、今日まで三十年に亙り、皇室の尊厳護持を活動の中心に、時代の趨勢の中で国家の根幹に係はる重大事項に対しましても断固たる姿勢で取り組まれ、全国に率先して次々とその敏腕を奮はれてこられたことは衆知の通りであり、歴代の本部長を始め関係各位の赤誠あふるる御熱意に深く敬意を表する次第であります。

しかし昨今の世相は、戦後五十有余年を経てもなほ、過つた歴史認識に拠る自虐史観や経済至上主義の論理が蔓り、政官財界の混迷、凶悪犯罪の多発、家庭或いは学校教育の破綻等、洵に憂慮に堪へない状況であります。

かうした時代においてこそ、民族立脚の原点に立ち復り、悠久の昔より伝へられてきた浦安の国造りをより一層推進してゆかねばならず、今後共貴本部に寄せられる期待と責務は愈々増すことと存じます。どうかその明達な識見と傑出した実行力をもつて、更なる御研鑽と御尽力を賜はりますやう御期待申上げる次第であります。

終りに臨み、貴本部の益々の御発展と関係各位の御隆昌、御健勝を心より祈念申上げ祝辞と致します。

京都府本部結成三十周年を祝して

神道政治連盟国会議員懇談会会長
衆議院議長 綿 貫 民 輔

神道政治連盟京都府本部の結成三十周年にあたり、心からお祝いを申し上げます。

我が国の根幹をなす神道精神を国政の場に確立すべく努めて参りました神道政治連盟国会議員懇談会も本年五月、同じく結成三十周年を迎えました。神政連の諸活動に携わってきた一人として、深甚なる敬意と感謝の念を表する次第です。

申し上げるまでもなく、我が国の文化は長い歴史と伝統に培われて参りました。しかしながら、現在の世情に目を向ければ、戦後の経済社会の発展に伴い、物質的な豊かさを享受してきた一方で、行きすぎた個人主義が社会に蔓延し、わが国の伝統的美風であった思いやりや助け合いの気持ちが希薄になりつつあることは軽視できません。こうした誤った風潮を是正し、私どもが先祖から受け継いだ民族の精神と文化を後世に正しく伝えてゆくことが今後ますます重要になると思います。

神道政治連盟は発足以来、剣璽御動座の復活、元号法制化を皮切りに、昭和天皇の御大喪及び今上陛下の御大典、反省と謝罪の国会決議阻止、国旗国歌法の法制化など、いずれも国家の基本にかかわる問題に取り組んでまいりました。これからも敬神尊皇の精神に基づく原点を忘れず、皇室の尊厳護持はもとより、憲法改正の問題、靖國神社公式参拝、教育の正常化、伝統文化の保護育成などこれからも日々刻々と変化する時局問題に対応していかねばなりません。

そのためにも私ども関係者が相携えて、国家民族の発展を願い、健全なる国民精神と伝統ある精神文化の更なる涵養に努めなければならないものと存じます。

ここに大会の御盛会を祝し、神道政治連盟京都府本部の益々の御発展と関係各位の御健勝と御活躍を心より祈念申し上げ、祝辞と致します。

新たな決意と実践への期待

神道政治連盟
会長 宮崎義敬

あの敗戦と厳しい占領政策の下で、いち早く斯界の結束を固めた神社本庁の設立は先輩たちの果敢な決意と英知によるものであるが、その後の時局への対応に試練を重ねた経験から神道政治連盟の結成に踏み切った気概もまた格別なものであった。中央本部の設立に呼応して次々に地方本部が立ち上げられた当時の青年行動隊の一員として、それは将に明治維新の勤王の志士のこころざしを持てと言われているように思えたものである。

身近には母の実家に池田屋の変で新撰組の手にかけられた広岡浪秀がいたし、捕われて斬害された佐伯稜威雄もまた長州の神職であった。多難な時局を座視することのできなかった神職たちの一命を賭しての行動はいくつも挙げることができる。人間の生き方や行動は時勢の影響を受けるが、その時勢をどう見るかという時勢眼によって大きく変わってくるといえよう。憂うべき日本の現状もどの程度の危機感をもって受けとめられているかは個人差のあるところではあるが、時局を論評しているだけでは日本再生の道は拓けない。実践への展開につながる意識をどう高めるかの問題である。それも組織を挙げて使命感が漲らなければ力にはなり得ない。

三十年という歩みは重く、実現し得た事柄もあるが、神道政治連盟が斯界の一組織という段階にとどまっていては果せないこともあまりにも多い。伝統的な価値観を否定した戦後教育一つを見直すにしても広く国民への共感を呼びかける運動が必要であることを痛感するが、それは広義の教化活動を進めることであって別のことではない。但し、新しい発想や試みがなければ十分な手応えを感じることはできないであろう。そうした意味からも、近年とみに先駆的な役割を果しておられる京都府本部の創立三十周年を祝し、新たな決意と実践による益々のご発展を期待して止まない次第である。

祝　辞

京都府神社庁
庁長 室田　襄
（岩屋神社宮司）

神道政治連盟京都府本部創立三十周年を迎えられるに当たり、京都府神社庁を代表致しまして一言御祝い申し上げます。この三十年という大きな節目にわたくし庁長として挨拶を申し述べさせて頂きます事は、誠に感慨一入の思いでございます。昭和四十四年に神社本庁に神道政治連盟が結成され、翌四十五年京都府本部が創立いたしましたが、産みの苦しみと申しましょうか、誕生までには数々の議論が白熱し、賛否両論が闘わされました。京都府本部とて例外ではなく、斯界の御理解御協力を得る事は困難を極め、その道程は決して平坦ではありませんでしたが、今、その努力が報われ記念大会が開催されますこと、お慶び申し上げますとともに、当時、事に当たられました先賢に衷心より敬意を表するものであります。

さて、靖國神社国家護持、憲法改正、昭和の日制定、夫婦別氏姓など問題は山積しており、愈神道政治連盟の御活躍が期待される所でありますが、わたくしは、次の点を声を大にして申し上げたいと存じます。と申しますのも、過日の森総理の所謂「神の国発言」には快哉を叫んだことでございましたが、その後総理は国会答弁において靖國神社参拝については「公的にしろ私的にしろ自主的に考えたい」と言いながら、矢張り参拝を見送りました。片や石原東京都知事は「遺族の方や英霊に少しでも喜んで頂けるなら参拝します」と毅然たる態度でありました。正に政治家の信念ここにあり、と申しましょうか、混迷の今こそこうした潔さがいつ如何なる時にも大切であり大きな拍手を送りたいものであります。

創立以来の歴代本部長、役員諸賢の意を継承して創立三十周年を見事に企画運営され、国民運動の先頭に立って我々を御指導頂いております田中本部長を中心とする役員諸氏の御努力に感謝申し上げますとともに、神社庁始め関係友好団体と一丸となって日本再生のために今後益々御活躍下さいますこと、加えて各位の御健勝を祈念申し上げ、祝辞と致します。

祝　辞

京都府神社総代会
会 長 林 田 悠 紀 夫

神道政治連盟京都府本部は田中恆清本部長を中心とし、混迷する日本の政治の中にあって民族の道統を恢弘し国民精神の昂揚を図るため、多大の御努力をいただき、ここに創立三十周年をお迎えになりました。

本部長様をはじめ会員の皆様に深甚の敬意を捧げるものであります。

日本の政治は現在極めて混乱を続けております。参議院選挙比例区の拘束名簿式か非拘束名簿式かをめぐって、与野党の争いは続き、議長の辞職によってようやく収束しました。

日本の政治に両院があることは、かつて貴族院があったために日本側の要望によって憲法で規定されたものであり、参議院は良識の府でなければ存在意義はありませんが、今や政党化しており、当然非拘束にして国民が学識者を選ぶようにすべきであります。

神道政治連盟は、日本の政治を匡し、日本精神の昂揚のために一層の御活躍を希うものであります。

記念音楽会・歌とお話

伝えたい日本の心の歌＝童謡・唱歌

ソプラノ歌手　島 田 祐 子さん

この度は、このような盛大な会で、歌わせていただけることになり、大変幸福な事と、このご縁に感謝致しております。

30年以上うたを歌って参りましたが、やっとここ数年で、本当の意味での“うた”が分かってきたかなーと、思っております。

人が、うたうことは、泣くことと似ています。人はやり場のない悲しみや、耐えられないほどの怒りや、憤りに泣き、うたいます。どん底の淵で温かい救いに涙し、また歌います。うたは、人々の心の叫びなのです。

以前、鶴ヶ岡八幡宮の白井名誉宮司様にお目にかからせて頂いた際に、＜“うた”と言う言葉は、“訴え”と言う言葉が短くなったものでは？＞という説に、目からうろこが落ちたような思いが致しました。

戦争もなく、物が豊かな、平和な日本のはずなのに、何故か人々の心はすさんでいます。日本の唱歌や童謡には、日本の人々の悲しみや、喜びが溢れています。そして、日本の人々の精神性の高さも、はっきりと読みとることが出来ます。

そのような方面にお詳しい皆様にお聞き頂くには、未熟な歌とお喋りとは思いますが、ごゆるりと、懐かしい唱歌などを、お楽しみ頂ければ幸いです。

—プロフィール—

東京芸術大学卒業後、同大学院修了。

二期会オペラ「こうもり」のアデーレ役でデビューの後「メリー・ウィドウ」のハンナ「ナクソス島のアリアドネ」のツェルビネッタ、「天国と地獄」のユーリディス、「三文オペラ」のボリーなど、数々のオペラに出演。

オペラ以外にも「Classical（クラシカル）・New（ニュー）」というソロリサイタルを開き、クラシックからポピュラーまで歌いこなしポップスの分野でも大いに注目される。

ミュージカル、ポピュラーの分野での活躍もめざましく、よい歌なら何でも歌ってゆくというジャンルにとらわれない音楽感覚は幅広い音楽活動となって現れている。

昭和六十二年“こころの歌”と題した100曲の抒情歌が収められた５枚組のアルバムをCBSソニーより発売し話題を呼ぶ。後に日本の歌シリーズとして“思い出の童謡”“思い出の青春”（CBSソニー）を発売。

平成元年には俳優・林隆三とのジョイントによるクリスマスソングアルバム“HAPPY LITTLE CHRISTMAS”（CBSソニー）を発売。

平成三年、なかにし礼のオリジナル訳詞による“モーツァルト愛の歌”（CBSソニー）を発売。初の日本語のモーツァルト歌曲集として話題を呼んだ。

平成四年にはオーチャードホールにて25周年記念リサイタルを開く。

成熟した歌声と暖かい人柄で、コンサートやオーケストラとの共演、TV、ラジオなどさまざまな分野で活躍。軽快なおしゃべりにも定評がありクラシックファンのみならず広い層に支持されている。

現在、日本テレビ“おもいっきりテレビ”にゲストコメンテイターとして出演中。

著書としては“希う母のまなざし”（フレーベル館）

「激動の日々を経て、復興をとげた時代」

神道政治連盟国会議員懇談会事務局長
参議院議員　小山孝雄

「激動の日々を経て、復興をとげた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」

これは制定準備中の「昭和の日」に関する法律案が定めた「昭和の日」の意義である。「昭和の時代」を最も端的に言いあらわしている。まさしく、“激動の日々”であり“復興にひた走った日々”であり、またかつてない物質的繁栄を享受した時代でもある。

先の国会で「昭和の日」法案を国会に上程し、発議者のひとりとして答弁に立ったとき、民主、共産、社民各党の議員は揃って「昭和の時代を発議者はどう認識しているか？」と聞いてきた。

われわれ発議者は「昭和の時代に対する思いは、国民それぞれの世代、立場によってもまた様々であろうと考えられるところであり、国民が、それぞれの立場、考え方から、昭和の時代を顧みることが昭和の日を創設する趣旨に合致するものと考えている」と答えたものでした。

野党の質問者は本当は「昭和の時代のある時期、日本は侵略国家であったとは思わないか。そんな時代を祝祭日に名称を冠してのこすとはどういうつもりなのか」と言いたいのだった。どうしてもそう思いたい者は、それはそれでいたし方のないことではある。しかし、時と場合と立場によっては、そんな考えをふりかざすことは断じて許されないことがある。

十月のはじめに表面化した、文部省の教科書検定審議委員の一人、野田英二郎なる元外交官（元インド大使）が、目下検定申請中の新しい歴史教科書をつくる会のメンバーが執筆者になっている中学校の歴史教科書を不合格にするよう、正式会議の前々から、他の委員に書面で働きかけた事件が表面化したが、公平、公正であるべき教科書検定審議委員のような場合、いくら「人それぞれ」といっても、許されることではない。

しかも、その裏工作は中華人民共和国の朱鎔基首相の来日と時期を同じくして行われ、情報では、外務省首脳や、元大物政治家が関与しているという驚くべき指摘もある。いつから外務省の事務に「教科書検定に関する事項」が入ってきたのだろうか、外務省組織令のどこを見ても書いていない。

しかも、審議委員で、歴史分野担当の小委員のひとりである問題の人物は、極左の「日本労働党」の機関紙に「日米安保条約は、冷戦終結で歴史的使命を終えた。なのに米国の世界戦略の要請によって存続、強化しようとしている。…」と堂々と日米安保不要論を開陳しているのだ。このような人物が外交官を何十年も務めあげたことも驚きだが、この人物が歴史教科書担当の審議委員に任命されていたことの方が問題は大きい。教科書検定のあり方が問われた事件であり、“昭和への思いは人それぞれ”などと言ってはおれない重大事件だった。

在職二十年を振り返って

神道政治連盟中央本部
前事務局長　打田文博

私が在職した神政連二十年は、御代替りを境に概ね昭和の十年平成の十年を通したことになります。退任四ヶ月、過去を振り返っての実感は、次々に燃え上がる火をがむしゃらに消すがごとくでありました。

自分では、取り組むべき課題を中長期的に分け整理していたつもりでしたが、現実は前記の通りでした。その原因はと問われれば、思い当る点は数々ありますが何と言っても、所謂五十五年体制の崩壊をあげざるをえません。この政変は後に政権維持の政治力学が働き、政界再編という方向へ進み出したのですが、その根底にはやはり国民意識の変化があったと思います。

それは、公益と私益のバランスが大きく崩れ、私益優先の個人主義が蔓延しだしたのです。すなわち、戦後民主主義教育の欠陥が政界再編という旗印のもと一気に吹き出したのではないかと思います。

このことは、神政連の活動にも少なからず影響を及ぼしました。いうまでもなく神政連は皇室を中心とする伝統国家の国益を一義とした国民運動を展開して来たのですが、周りは私益中心の市民運動花盛りとなり、その上異常な程の少数者保護の論理が大手を振ってまかり通るわけですから大きな戸惑いでした。なにせ、反対が五なら賛成は六、七でよし、という戦法は通用しないのです。国民運動もこの時点で戦略戦術上大きな課題を背

負ったのです。

一方、昭和の時代は政教分離論争に一定の決着がついた時代でもありました。靖國神社公式参拝一つを取って見ても、余程狂った学者以外は、憲法問題を金科玉条のごとく論ずる者はなく、反靖國派とても、次なる手段、外圧利用に走っていることからも明らかです。

さらに、御代替りの諸儀式ですが神社界のみならず多くの国民が注目する中、事前のマスコミ報道や左翼学者の発言など吹き飛ばし官邸主動で、実質上国家儀式として行なわれたわけで、改めて皇室の偉大さを痛感した次第です。

さて、平成の大御代も十二年を迎えましたが、依然として行き過ぎた個人主義とそれに迎合する政治は止まる所を知らず、さらに社会は、少年犯罪、教育の荒廃等憂慮に堪えない現実があります。又、近々大きな山場を迎える憲法改正、靖國神社の問題など基本的な事項もあり、今後も多難な時代が続くと思います。しかし一方では、明るい面も沢山あると思います。国内には伝統的な日本精神に問題解決の活路を見出そうとする識者も年々増加しているし、海外でも神社や神道に対する関心が高まっています。

戦後の国民運動は、どちらかというと問題対処型だったと思いますが、今後はむしろ能動的な運動を展開すべきと考えます。「こんなことをしたらだめになる」ではなく「こうするとよくなる」方式です。国民運動は一人でも多くの理解者を得る努力を継続することで、チャンスは常にあると考えねばなりません。目的達成のためには、「弱気にならず」「評論家にならず」「時局と基本を同時に見据え」行動あるのみだと確信することです。

神道政治連盟京都府本部創立三十周年
記念表彰状並びに感謝状贈呈者

◈表彰状贈呈者

〔特に会員増強に努めたる功績の支部〕

京都市上支部
京都市下支部
洛東支部
洛西支部
洛南支部
洛北支部
相楽支部
亀岡支部
船井支部
福知山支部
舞鶴支部

（前正副本部長及び正副幹事長並びに役員経験者（25周年既表彰者を除く））

前本部長　宮下　務　殿
前副本部長　故・清水勝三　殿
前幹事長　橘　重十九　殿
前副幹事長　林　秀俊　殿
前監査委員長　黒嵜章次　殿
前綱紀委員長　江本　滋　殿
前財務委員長　小栗栖元徳　殿
前組織委員長　澤田　潔　殿
前会計責任者　伊藤千佳比　殿

〔支部長推薦者〕

洛南支部　井上秋太郎　殿
〃　小畑九一郎　殿
〃　杉井権七　殿
船井支部　上田栄英　殿
北桑田支部　岡本　要　殿
〃　西　静三　殿
〃　杉本千乗　殿

◈感謝状贈呈者

〔財政基盤特別協賛神社〕

伏見稲荷大社　松尾大社
石清水八幡宮　賀茂別雷神社
平安神宮　賀茂御祖神社
八坂神社　吉田神社
北野天満宮　岩屋神社

〔財政協賛業社〕

有限会社　魚　直　殿
〃　竹　重　殿
株式会社　井　筒　殿
岡本商店　殿
株式会社　日本電機商会　殿
〃　洛王セレモニー　殿
〃　磯崎瓦店　殿
〃　谷忠工芸　殿
瓢　樹　殿
伸和建設株式会社　殿

特集「香淳皇后をお偲びして」

『香淳皇后をお偲びして』

平安神宮
宮司　九條道弘

皇大后陛下香淳皇后におかせられましては、去る平成十二年六月十六日、崩御遊ばされました。

今なお国民一同が均しく深き悲しみに包まれ、在りし日のお姿をお偲び申し上げる日々を過ごしている処と存じます。

ここに謹みて奉悼の誠を捧げる次第でございます。

昭和天皇の御代は激動の時代と表されますが、私は一貫して平和を希求し続け、苦難の末手に入れることができた時代が「昭和」ではなかったかと存じます。それはまさに昭和天皇といつもそのお側におられた皇后陛下の広大無辺なるご聖徳の賜物に他なりません。

我が国が戦争、そして敗戦という未曾有の国難に見舞われながらも、国民一同がまさに心を一つに荒廃した国土の復興につとめ、五十年を経た今、平和と繁栄を謳歌するに至りました。他国に類を見ないこの成果は、ひとえに昭和天皇・香淳皇后両陛下の大御心によるものであるということを決して忘れてはならないと存じます。

両陛下には荒廃した国土と人の心の復興のために、御自らご尽力あそばされ、御心は常に国民の上にありました。我々国民は畏くもその御姿を拝し、深き尊き祈りに思いを致せばこそ大きな励みとなり、再び立ち上がることができたのではなかったでしょうか。

香淳皇后の温かくお優しい御姿、すがすがしく穏やかなほほえみにふれるたび、どれほど多くの国民が希望をあたえていただいたことでしょう。

追号奉告之儀での天皇陛下の御誄にございました「長き歳月、昭和天皇をお助けになり、温かく、香しくましました在りし日のお姿は今も深く心に残っております。」との大御心を拝し、ご皇恩に報いるすべもございませんが、ひたすらに御神霊の安らかなることを祈念申し上げ、深甚なる感謝の誠を捧げ奉る次第でございます。

香淳皇后を偲び奉る

熊野神社
宮司　岸本宣美

— 久邇宮良子女王時代 —

鴨川の堤のほとりなつかしき
幼き頃に住みしかの家

昭和四十六年、香淳皇后が京都に行啓され久々にご幼少の砌お住いになった懐しい荒神口のあたりをお詠みになったお歌である。

久邇宮邦彦王と島津家のご出身である倶子女王の、三男三女の御子の第一女王として、明治三十六年三月六日ご誕生になったのが、良子女王である。久邇宮家は宮家の中でも中くらいのお家であり、あまり優遇されていなかったとお聞きする。邦彦王の父君である朝彦王は中川宮であり、後に出家され青蓮院へ入られ、粟田宮又青蓮院宮といわれた時もあった。其の後還俗されたが、尊皇倒幕で出来た明治維新政府の中では、公武合体派の中川宮に対しあまり好意的でなかったのも当然であろう。

私の三代前、正五位下大舎人助源朝臣岸本業寿は青蓮院に関りのある士族であった。

業寿の孫であり父の姉であった岸本繁尾が、良子女王のお守役として久邇宮家にお世話になったのは明治四十一年であるから良子女王御齢五歳学習院女学部幼稚園にご入園の頃で、繁尾二十二歳の時であった。

明治四十二年四月、学習院女学部小学科にご入学、明治天皇崩御され、大正と改元されて四年四

良子女王と繁尾女史

月中学部にご入学、東宮妃にご内定になったのが三年後の大正七年一月十四日である。その頃繁尾は三十二歳であり、東京寺島でゴム工場を経営していた瀧野家に嫁ぐことになり、お暇を戴く旨申し上げると、「いい年をして今更お嫁に行かなくてもよい」と、十年のお務めの間で始めて駄々をこねられました、と伯母は苦笑していた。

私が國學院の入学試験で上京した昭和三十年の頃、伯母繁尾は千葉県市川市に住んでいた、本八幡の駅から約十分程歩いた閑静な住宅地であった。そこに私は居候をきめこんで、入学後も暫く渋谷まで通学していた。

その頃、作家の小山いと子さんが度々伯母を尋ねて来られた。「先生は“皇后さま”という小説をお書きになっているので、皇后さまのご幼少の頃のことを取材にみえているのですよ」と伯母が言っていた。小山いと子さんの“皇后さま”という小説は、たしか昭和三十一年頃に刊行されたと思う。

良子女王のご幼少の頃のお遊びは、お手玉、おはじき等で、大変ご器用な方で、紙細工や貼り絵等もお上手であった。又オルガンもよくお弾きになっていた。

散歩が毎日の日課で、毎朝繁尾がお供をして麻布の鳥居坂のあたりを散策され、途中にある小学校の校庭で生徒等が体操をしている姿等を興味深げにご覧になったりしてお帰りになってから朝食をおとりになった。朝食はだいたいパンと牛乳が中心であったが、味噌汁や煮豆等もお好きであった。

ご姉妹の仲もいたって良く、喧嘩をされたことは一度も無く、たまに妹君の信子さまや、智子さまに、「そんなことをおっしゃっては、いけませんよ」とたしなめられることがあった。「お姉さまは神様です、お姉さまのおっしゃることは絶対です」と妹さまが言はれると、「そうです私は神様です」と云われ、お笑いになっていたとの事です。社交的で、ご活発な一面があり、山登りがお好きで、こよなく自然や動植物を愛され、ご自身でも鶏や鶉等をお飼いになっていた。「どうして餌ばかりたべて卵を生まないの」と質問されて、伯母を困らせられた。

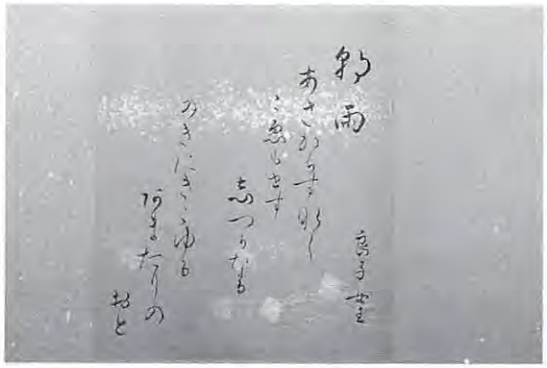
良子女王ご愛用の玩具

香淳皇后さまは雅号を桃苑と申され、大和絵の名手であられたのは有名であり数々の作品を残されているが、当家には久邇宮良子女王時代の、旭日にはえる松の木に鶴の止った掛け軸(表紙写真)があり、十四、五歳頃の素直で気品あふれる画である。

又、美しい自然とのふれ合いを詠まれたお歌が多く、書もまことにご堪能であらせられた。

朝　雨

あさ鴉鳴く声もせず静かなる
　　のきに聞ゆる雨だりの音



良子女王御歌

海　邊　松

うらうらと初日にはえる島やまの
　松の木蔭に浪のよる見ゆ

朝　　霜

わが庭にうつろいのこる菊の花
　あさ霜おきて寒きなるかな

大正十一年九月二十八日、皇太子裕仁親王との納采の儀を了えられた次の年、五月四日から六月五日迄、御両親、信子女王と共に関西、九州地方をご旅行になった時、伊勢神宮に参詣されお詠みになった歌。

いい知らず清き五十鈴の川原風
　心のおくにしみわたりけり

この時御齢二十歳であらせられた。

明治にご誕生、大正にご成婚、昭和に皇后、平成に皇太后と、常に微笑(ほほえみ)を忘れず、激動の昭和時代を天皇と共に常に国民に対し慈愛の心をもって接して下さった香淳皇后様ご自身のご日常は非常に御質素な生活振りであったことは、伯母の話の中にも、うかがい知る。「良子女王さまが平素から御質素なことは、お側の者が本当に畏れ多いほどで、例えばお召物など学習院へ御通学の頃から今日までお襦袢は晒木綿ばかりを召され、着物も銘仙に限られているので、私共は何を着ていいやら判らないほどでした。お袴もセル地のものを二度も三度も仕立なおしてお着けになるのであまり恐縮ですから、何彼と申上げると、“着物のことなどどうでもいいではないか”とお言葉を頂戴して却て赤面しました」

このような香淳皇后様のお心は日本の皇室の方々すべてに通ずるものである。

良子女王ご愛用の玩具

こんな素晴しい皇室をいただく日本に生れた喜びを、つくづく感ずる毎日であります。

香淳皇后さまをお偲びして

京都市
主婦　古川妙子

香淳皇后さまが崩御遊ばされて早四ヶ月。山陵百日祭の儀までの三ヶ月に渡る大喪の儀も、今思えばあっという間に過ぎた様に思います。ここ数年はテレビで拝見する事も少なく寂しい思いを致しておりましたが、皇居にてお変わりなくお過ごしでいらっしゃる、ただそれだけで、大変心強く感じておりました。このたびの崩御の悲報に接し、今更ながらそのご存在の大きさに改めて気付かされ、皇后として歩まれたご生涯を思うとき、同じ女性として香淳皇后さまの人生に思いを馳せずにはいられません。

皇族の姫君としてお生まれになられた香淳皇后さまはご幼少の頃より、勉学、スポーツに長けられ、ヴァイオリンやテニスなども常日頃から親しまれておられたと伺っております。またご兄弟思いのやさしくしっかりされたお姉さまぶりを発揮され、まさしく皇后となるべくこの世に生をうけられたというほかございません。

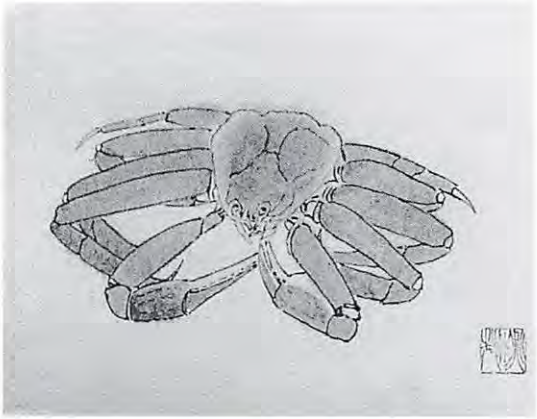
しかしながら、昭和と申せば、皇室にとって、また国民にとって予想も出来ない激動の時であり、香淳皇后さまが皇后であらせられなければ、今の平和な日本はあり得なかったのではないかと思いますと、つくづく神様がお選びになられたお方なのだという思いを強く致します。

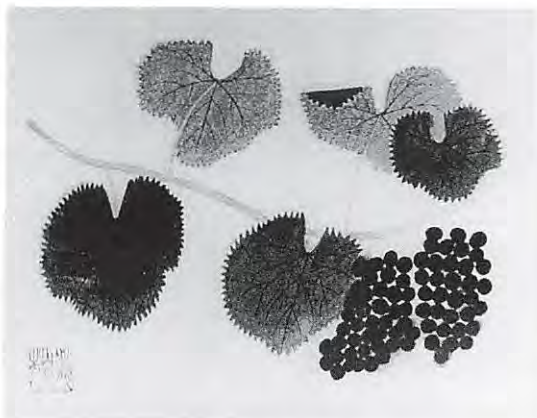
そして香淳皇后さまを思うとき、真っ先に思い浮かべますのは、何といってもあの素晴らしい笑顔でございます。戦後の混乱の最中、どんな辛い状況をも包み込んでしまわれるあの微笑みに一体どれほどの国民が救われた事でございましょう。国民はもとより、まさに国家、国民の上に降りかかる国難を、全身全霊で払いのけようと苦悩され

る昭和天皇さまには、皇后さまのご存在が如何ばかりのお心のお支えになられたことでございましょう。香淳皇后さまの微笑みには、広いお心と、天皇陛下と共に歩んでいく、という強いご覚悟が込められたものだったのではないでしょうか。戦後、昭和天皇さまには、現人神から人間天皇になられましたが、そのお側で常に何一つ変わる事なく、お仕えなされる皇后さまの御姿に、国民も変わらぬご皇室の弥栄えを祈り、平和の礎を今に引き継ぐ事が出来たのではないでしょうか。

朴訥(ぼくとつ)の感のあられます昭和天皇さまの傍らに、いつも笑顔で佇んでいらっしゃった香淳皇后さま。皇居内をお手をおつなぎになられご散策される両陛下。テレビに映しだされる海外でのプリンセススマイルは、私ども国民の誇りでございました。昭和という時代を陰でお支えになり、国民の母としての責務もご立派に果たされた香淳皇后さまを、我々はいつまでもお慕い申し上げることでございましょう。ご苦労の上に築かれました平和がいつまでも続いていきますよう、お見守りください。

謹んで御霊の永久に安らかならんことをお祈り申し上げます。





香淳皇后御筆

この度の「香淳皇后をお偲びして」の特集を組むにあたり、未公開の岸本家所蔵の香淳皇后さまがご幼少のみぎり描かれた絵画、御歌、また自らお手にされ、ご愛用になられた玩具などの数々のご宝物を熊野神社宮司岸本宣美様のご好意により、数点披露させて戴くことが出来ました。

＊

表紙

◆久邇宮良子女王時代（十四・五歳）の頃に描かれた旭日にはえる松の木に鶴の止まった掛け軸。

12頁

◆良子女王と岸本繁尾女史。

◆良子女王ご愛用の玩具　紫のヒスイの兎はことのほか大事にされていた物。

◆良子女王時代に詠まれた御歌。「朝　雨」

13頁

◆良子女王ご愛用の玩具。

裏表紙

◆良子女王ご愛用品。

すごろく

碁　　盤

将 棋 盤

いずれも子供用にてひとまわり小さく作られており、碁石は１cm程。

＊

香淳皇后さまは雅号を「桃苑」と申され、数々の大和絵を残されておられます。

この度、神社新報社のご尽力により香淳皇后さまの二作品（14頁）をご紹介させていただきました。

—事務局だより—

神道政治連盟京都府本部
事務局長　竹 内 幸 平

◇**事務報告**（平成12年６月24日以降）

平成12年

６月24日(土)　神政連京都府本部第４回時局問題勉強会　関係者21名出席　於京都府神社会館

６月25日(日)　衆議院議員選挙投票日

７月10日(月)　神政連京都府本部創立30周年実行委員会・企画・財務委員会合同会議　田中本部長以下15名出席　於京都府神社会館

〃　日本会議・京都、正副議長運営委員長及事務局長並専門委員会議　田中本部長以下関係者出席　於京都府神社会館

〃　神政連京都府本部創立30周年実行委員会企画及編集部会議　田中本部長以下関係者出席　於京都府神社会館

７月12日(水)　関係団体代表者懇話会　田中本部長以下３名出席　於京都府神社会館

７月14日(金)　日本会議・京都、第４回百人委員会　田中本部長出席　於京都センチュリーホテル

７月15日(土)　第19回参議院議員選挙　小山孝雄候補推薦

７月25日(火)　日本会議、総務・研修委員会　田中本部長他関係者出席　於平安神宮

７月28日(金)　神政連中央本部四役会及綿貫衆議院議長就任激励会　田中総務会長出席　於神社本庁

〃　全国幹事長会　藤森副幹事長出席　於神社本庁

７月29日(土)　神政連結成30周年近畿地区大会第４回(最終)実行委員会及監査会　田中本部長以下関係者出席　於京都府神社会館

〃　第１回神政連近畿地区協議会　田中本部長以下関係者出席　於京都府神社会館

８月１日(火)　神政連京都府本部監査委員会　田中本部長・文室監査委員長以下８名出席　於京都府神社会館

〃　神政連京都府本部役員会　田中本部長以下13名出席　於京都府神社会館

〃　神政連京都府本部創立30周年記念事業実行委員会　田中本部長以下17代出席　於京都府神社会館

８月５日(土)　日本会議・京都、定例総会及全国キャラバン隊来京歓迎式　田中本部長以下関係者出席　於京都府神社会館

８月17日(木)　香川県神政連議員連盟結成式典　田中総務会長出席　於高松厚生年金ホール

８月20日(日)　中郡神社総代会総会　田中本部長出席　於京都府神社会館

８月28日(月)　神政連京都府本部創立30周年記念事業編集部会　進藤部長以下５名出席　於八坂神社

８月31日(木)　京都の躾を語る女性の会事務局会　室田幹事長以下関係者出席　於京都府神社会館

９月１日(金)～30日(土)　ヤチマタキャンペーンキャラバン隊広報活動　竹内事務局長以下関係者

９月６日(水)～７日(木)　神政連中央本部四役会・監査会・役員会　田中総務会長出席　於神社本庁・参議院議員会館

９月７日(木)　神政連京都府本部創立30周年記念大会記念コンサート打合会　田中本部長以下関係者出席　於都ホテル

９月12日(火)　神政連中央本部前事務局長打田文博宮司激励会　田中総務会長　於掛川グランドホテル

９月14日(木)　神政連愛知県本部大会　田中総務会長出席　於熱田神宮会館

９月18日(月)　神政連京都府本部定例代議員会　田中本部長以下関係者出席　於京都府神社会館

９月20日(水)～21日(木)　綴喜神社総代会総会研修会　田中本部長出席　於米子市

９月21日(木)　洛北支部神社総代会総会　田中本部長出席　於萬重

９月23日(土)　日本会議・京都、第４回運営委員会　田中本部長以下関係者出席　於京都府神社会館

〃　日本会議・京都、第７回近代日本史を掘り下げる研修会　田中本部長以下関係者出席　於京都府神社会館

９月27日(水)　神政連東北地区連絡会　田中本総務会長出席　於郡山市

９月28日(木)　神政連兵庫県本部大会　田中総務会長出席　於尼崎市

〃　乙訓神社総代会結成30周年記念大会　田中本部長講演　於京都府神社会館

９月29日(金)　神政連滋賀県本部大津支部研修会　田中総務会長出席　於大津市

10月３日(火)　神政連京都府本部30周年記念大会記念コンサート打合会　田中本部長以下３名出席　於都内ホテル

10月８日(日)　京都の躾を語る女性の会　室田幹事長以下関係者出席　於京都府神社会館

10月10日(火)　神政連青森県本部時局講演会　田中総務会長講演　於青森グランドホテル

10月11日(水)　綱紀委員会及び30周年記念表彰審査会　田中本部長以下６名出席　於京都府神社会館

10月16日(月)　神政連京都府本部結成30周年記念事業実行委員会　田中本部長以下22名出席　於京都府神社会館

10月19日(木)　神政連中央本部四役会及選挙対策委員会　田中総務会長出席　於神社本庁

10月20日(金)　日本会議、理事会及百人委員会　田中本部長出席

10月27日(金)　神政連滋賀県本部30周年記念大会　田中本部長出席　於守山市民ホール

〃　福井県神社関係者大会　田中総務会長講演　於武生市商工会館

10月29日(日)　相楽神社総代会研修会　田中本部長講演　於京都府神社会館

10月30日(月)　神政連関東地区三役会　田中総務会長出席　於三峯神社

10月31日(火)　神政連中央本部四役会　田中総務会長出席　於三峯神社

11月25日(土)　日本会議・京都、研修会　於京都府神社会館

11月26日(日)　神政連京都府本部創立30周年記念大会鼎談打合会　於リーガロイヤルホテル京都

11月27日(月)　神政連京都府本部創立30周年記念大会　於リーガロイヤルホテル京都

発行日　平成12年11月27日（第29号）
発行者　神道政治連盟京都府本部
〒616-0022 京都市西京区嵐山朝月町68-8（京都府神社庁内）
TEL 075－863－6677

神道政治連盟京都府本部